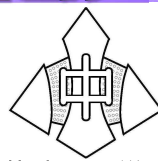


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年11月26日（金）発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

“県大会ベスト8” 女子卓球部頑張りました！

11月23日（火）には、須賀川アリーナにおいて「第50回福島県中学生新人卓球大会」が行われました。本校女子卓球部は、予選リーグにおいて、南会津中に3対2、平三中に3対1で勝利し、グループ1位となって決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメント1回戦では西郷二中に3対0で勝利し、準々決勝で小名浜一中に1対3で惜しくも敗れました。“県ベスト8”は本当に立派な成績です。よく頑張りました。会場で感じたのは、女子卓球部の生徒達の控え場所での態度、戦う姿勢、応援する姿、そして、何より全員で戦うというチームとしてのまとまり



がすばらしかったということです。ここまで勝ち進んできた理由がよく分かりました。また、クラブチームに所属する生徒が上位を占める卓球の世界で、クラブチームに所属する生徒がない本校卓球部のこの活躍は特筆すべきことだと思います。

この県大会でベスト16のチームは、1月10日に開催される福島県中学校選抜卓球大会の参加資格を得ることになります。その目標に向けて鍛錬を積み重ね、さらなる高みを目指してほしいと思います。

団体メンバー

凌りくな、佐藤愛華、陰山杏莉、高橋穂乃佳
横田花穂、吉田茜音、吉田明愛、鈴木彩瑛



今回は副部長の2名に大会を終えての感想を書いてもらいました。

私は県大会に参加して学んだことがあります。それは県レベルの厳しさです。私はこれまでに何度か県大会に出場したことがありますが、今回の大会で改めて県レベルの厳しさを知りました。市大会のように簡単に勝ち上がることはできず、苦しい場面が多かったです。また、ベスト4決定戦では、対戦校に実力の差を見せつけられ、ベスト8という結果で終わりました。卓球は個人競技ですが、団体戦は一人一人の勝利が団体としての勝利につながるの、今後はチーム力を高めてさらに上を目指していきたいです。そして、1月に行われる県選抜大会では、団体メンバー一人一人が課題を克服した状態で臨み、目標である“ベスト4入り”を果たしたいです。(2-3 佐藤愛華)



私は初めて県大会に参加して感じたこと、学んだことがあります。それは、相手が市の時より強く、思っていたようなことがなかなかできない場面がいくつかあったということです。自分ではこういう試合をしたいと思っていても、うまくいかないことがありました。そこで学んだことは、点数を取られていても、諦めないで前向きに挑む気持ちや、一球一球を大切に繋いでいき1点でも多く点数を取り、勝つことで相手の次の試合に繋ぐことができるということです。これからの練習では、試合で相手にリードされていても、焦らず落ち着いて前向きに考えるというメンタル面や、点数を1点でも多く取るための技術面において強くなれるように、練習を積み重ねて、頑張っていきたいと思います。

(2-3 陰山杏莉)



“太郎ワールド”にどっぴりとひたるう！

12月3日、いよいよあの増田太郎さんが小原田中にやって来ます！心にしみる温かくてまっすぐなメッセージとともに、ときに優しく、ときにパワフルに奏でるヴァイオリンの音色や歌…そんな“太郎ワールド”にみんなでどっぴりとひたしましょう。私の大切な友人でもある太郎さんを本校の60周年記念行事に招くことができ、本当に嬉しい限りです。以前富田中で実施した講演ライブでの生徒の感想です。

私は「増田太郎」という人物に驚きを隠せませんでした。とにかく、明るい！おもしろい！ステージ上の太郎さんの印象はこれでした。初めて生の演奏を聴いて「ヴァイオリンってこんなにも綺麗な音色なんだ」と感動する自分がありました。また、太郎さんの話を聞いて、誰かと支え合うことによって「人」として生きていけるのであって、喜怒哀楽を忘れず、自分の想いを伝えていくことが大切なのだと知りました。「ありがとう」「ごめんね」「大丈夫」「好き」…この世には数え切れないほどの言葉があります。その一つ一つを心を込めて相手に届けていきたいです。私にとって中学校生活ラストでとてもgoodな時間を過ごせました。



太郎さんが奏でる音色一つ一つにいろいろな思いが込められていて、演奏を聴いた瞬間、心の中で何か温かいものを感じました。障がいがありながら、なぜこんなに力強く「生きる」ことができるのか。そんなことをずっと考えていました。結局、納得のいく答えは見つかりませんでしたが、このような問いをもつことも、また「生きる」という意味なのではないかと思いました。そんなことを思わせてくれる素敵な演奏でした。まるで夢の中にいるかのような楽しくて温かくて、ずっとずっとこの時間が続いてほしいと思いました。

ヴォーカル、作編曲、プログラミングもこなし、ドラマや映画、アニメの音楽も手がける一方、精力的に全国の学校や各種イベントでの演奏活動が続けてきた太郎さん。コロナの影響で思うような活動ができない中、最近では、NHK『おかあさんといっしょ』2021年1月の歌「おたすけ！およよマン」を作曲し、各種配信サイトのキッズチャートにて2ヶ月にわたり1位を独走しました。今年6月には、テレビ朝日『徹子の部屋』にも出演しました。太郎さんはよく「音で絵を描きたい」と言います。約90分の講演ライブでどんな色を使って、どんな絵を描いてくれるのか、今からワクワクします。

今回の講演ライブのテーマは、《**じぶん を 生きる！**》です。是非とも“太郎ワールド”を体感しながら、普段あまり意識することのない《生きる》ということについて考えてほしいと思います。 ♪♪♪♪♪

太郎さんとの2つのコラボが実現します！

12月3日に創立60周年記念行事として行われる教育講演ライブにおいて、ヴァイオリニスト増田太郎さんと生徒とのコラボレーションを2つ実施します。1つは、2年生が作った詩《生きる》の生徒による群読と太郎さんのヴァイオリン演奏のコラボです。もう一つは、全校生の校歌斉唱と太郎さんのヴァイオリン演奏のコラボです。

2年生では、この日のために国語科の授業で全クラス4時間をかけて特別授業を実施しました。伊藤久恵先生と私がT・Tで指導にあたりました。谷川俊太郎氏の詩「生きる」をモチーフに、2年生全員で《生きる》ことについて考え、その想いを言葉で表現しました。そして、それらの言葉を紡いで2学年全体として《生きる》をひとつの詩のかたちにしました。ライブでは、この詩を群読メンバーが、太郎さんの演奏とともに披露します。なお、この特別授業の様子については、後日詳しくお知らせします。

また、校歌については、3年鈴木遼介君の指揮、近藤風さんの伴奏によりライブの最後に全員で歌い、太郎さんとコラボします。この2つの太郎さんとのコラボもどのような“かたち”になるのか楽しみです。きっと心に残る素晴らしい時間を共有できるとと思います。



2年国語科の特別授業
ここから詩が生まれます！